



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語鶴川方言テキスト(3) : シナ皮剥ぎの思い出
Author(s)	岸本, 宜久
Citation	北方言語研究, 16, 239-264
Issue Date	2026-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.99352
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99352
Type	departmental bulletin paper
File Information	13_Kishimoto.pdf



[資料・研究ノート]

アイヌ語鵲川方言テキスト (3)
—シナ皮剥ぎの思い出¹—

岸 本 宜 久
(札幌学院大学)

キーワード：アイヌ語、鵲川方言、テキスト

1. はじめに

本稿では、アイヌ語鵲川方言の話者である吉村冬子氏から筆者が採録したシナノキの樹皮（シナ皮）剥ぎにかんする思い出の語り 2 編を紹介する。日本語を第一言語とする世代の継承語としてのアイヌ語の資料と位置づけられる。なお、付録としてテキストの音声資料を公開する。

1.1 本テキストの話者について

本テキストの話者である吉村冬子氏（1926–2022、写真 1 参照）は、北海道胆振東部を流れる鵲川河口の村、チン（現むかわ町汐見、図 1 参照）で生まれ育った女性である。アイヌ語と日本語のバイリンガルである両親と 17 歳までともに暮らし、両親のアイヌ語や、特に母親の交友関係の中でアイヌ語に深く接して育ったという。吉村氏の言語的背景と略歴については岸本（2024）で紹介しているため、そちらを参照されたい。



写真 1 吉村冬子氏（2014 年、筆者撮影）



図 1 チン（汐見）の位置

1.2 本テキストの採録と特徴

本稿の 2 編のテキストは、吉村氏が 14～15 歳のころ（1940 年ころ）に隣近所のおじさん、

¹ 副題は本テキストのテーマに基づいて筆者が付けたものである。なお、本稿は「アイヌ語鵲川方言テキスト」と題して岸本（2024）、岸本（2025）に続けて公開する吉村氏の談話資料の一部である。

おばさんたちと泊まりがけでシナノキの樹皮（シナ皮）を剥ぎに行った際の忘れがたい思い出を語ったものである。2014年9月20日（第58回調査）に採録した談話資料をテキスト1、2014年10月4日（第59回調査）に採録した談話資料をテキスト2とする。いずれもむかわ町汐見の吉村氏宅で語っていただき、デジタルICレコーダーとデジタルビデオカメラによる記録を行った。シナ皮は糸や縄の材料として利用され、吉村氏は当時、母親がシナ糸で編んだ蓑や父親が編ったシナ縄を売って生計の足しにしていたという。シナ皮剥ぎの思い出は、大きく以下のエピソードで構成されている。

- ① 生活のために山へ行行ってシナ皮をたくさん採った
- ② 山の中で夕食をとろうとしたら大量の虫が空から降ってきた
- ③ 翌日も山の中でシナ皮をたくさん採った
- ④ 山の所有者に見つかり、シナ皮も鉋もすべて取り上げられた
- ⑤ 家に帰ると母が泣いて私を抱きしめた
- ⑥ 生活のためにまた山へ行行ってシナ皮をたくさん採った
- ⑦ 無事に帰ると母が私の手を取って迎えた
- ⑧ しばらくして役場に呼び出され、注意を受けて鉋を返してもらった

このうち、テキスト1は①②③④⑤⑧の流れ、テキスト2は①④⑤①②③④⑤⑥⑦⑧の流れでエピソードが展開されている。同じ思い出を語っているが、テキスト2では、まず④⑤のエピソードが語られている。その後、一連の思い出として、あらためて①から順にエピソードが語りなおされており、⑤のエピソード以降も生活のために山へシナ皮を採りに行ったことが語られている。なお、テキスト1、2ともに⑧以降は主に日本語での語りとなるが、シナ皮で生計を立てていた吉村氏の当時の生活の様子や心情を知る貴重な証言であるため、テキストとして最後まで示している。

吉村氏によるシナ皮剥ぎの思い出話は、1998年2月に北海道北見市で開催された第1回アイヌ語弁論大会（イタカンロー）でも「クヤイ オモッテ イタク（私が体験した話）」と題して吉村氏によってアイヌ語で語られている²。「クヤイ オモッテ イタク（私が体験した話）」のあらすじは、前述の①②のエピソードを中心としたもので、本稿の2編のテキストとあわせて、同一の話者による語りのバリエーションを比較できる資料として興味深い。イタカンローで語った経験は、後年に至るまで吉村氏がアイヌ語で「シナ皮剥ぎの思い出」を語る上での下敷きになっていると考えられる³。

その一方で、イタカンローで語った①②のエピソードについて、テキスト1、2では「山へ行行った日の昼食」「夕食を喜んだ理由」、③以降のエピソードなど、アイヌ語をベースによ

² 同大会ではこの話を含めて2編の思い出話をアイヌ語で語った吉村氏が最優秀賞を受賞しており、そのテキストはアイヌ文化振興・研究推進機構（1998）に掲載されている。なお、同大会で吉村氏が語ったもう1編の「クコロ ウパシクマ（若い人に伝える話）」のエピソードは、岸本（2025）を参照されたい。

³ イタカンローのテキスト全体は紙幅の都合で本稿に掲載していないが、テキスト1の①②のエピソードをもとに、イタカンローのテキストと異なる表現をしている箇所や日本語で語られている箇所については、脚注でイタカンローの表現を示す。なお、イタカンローのテキストはカタカナ表記であるため、本稿テキストとの対照の便宜上、引用に際してはローマ字表記に書き換えて示す。

り詳細な場面・心情の描写が語られている。吉村氏はテキスト2を語り終えた直後、「あんまり長くて、ところどころアイヌ語入れたり、シャモ語（日本語）入れたけど、とっても全部いっぺんにアイヌ語なんかできないから」と述べているが、テキスト1、2ともに15分以上にわたって文中、文間を問わずアイヌ語と日本語を自然に交替させながら語っており、2010年代以降に採録された日本語を第一言語とするアイヌ語の継承語話者（日本語・アイヌ語バイリンガル）の言語使用の実例として貴重な資料といえる。

2. 表記について

本稿のテキストは3行構成で示す。1行目はアイヌ語の音韻表記による原文、2行目はグロス、3行目は日本語訳である。日本語訳は暫定的なものである。アイヌ語の音韻表記は、服部（1964）で示されている音韻解釈に基づき子音/p, t, k, c, s, m, n, r, w, y, h/、母音/i, e, a, o, u/を用いて記した。ただし、声門閉鎖音を表す音素/ʔ/は、一部を除き表記を省略した。言い誤り、言い淀み、フィラーと思われる要素には「..」を付した。日本語での発話箇所は訓令式のローマ字でつづり、斜体・下線を付して示している。日本語での発話箇所の2行目には分析的なグロスは付さず、1行目と同文の書き起こしを示している。また、3行目では標準的な日本語に書き換えている。不明点、今後の検討が必要な点は脚注に示す。

3. アイヌ語鷓川方言テキスト：シナ皮剥ぎの思い出

3.1 あらすじ

隣近所のおじさん、おばさんたちとシナ皮を剥ぎに泊りがけで山へ行った。シナ皮を採っているうちに暗くなってきたので、支度をしてみんなで夕食をとろうとしたとき、鳥が私たちの焚火の上を旋回してどこかへ飛んでいった。不思議に思った直後、大量の虫がまるで雨のように空から降り注ぎ、せつかく作った夕食がすべてだめになってしまった。翌日も山の中でシナ皮を採ってあるき、たくさんのシナ皮を背負ってみんなで山を下りていたところ、山の所有者に見つかってしまい、シナ皮も鉈（ナタ）もすべて取り上げられてしまった。散々な思いをして家に帰り着き、山での出来事を母に話すと、母は私の苦労を思っ泣いて抱きしめてくれた。しばらくして役場から呼び出されたので行ってみると、他人の山に無断で入ってはいけないと注意されて、鉈を返してもらった。そうはいつでも、シナ皮を採らないと生計を立てられない。私が子どものころは生活のために多くの苦労をしたものだ。

3.1.1 テキスト1

採録日：2014年9月20日

テキスト収録時間：16分24秒

(1) ekimne arpa wa cikuni hunara an.. kor oyakoyak un apkas wa
山へ 行く て 木 探す # ながら あちこち へ 歩く て
山へ行って木を探しながらあちこちへ歩いて

(2) yatto, nipesni.. nipesni a.. anto.. oboeteta kotoba mo wasuretyatta
やっと # シナノキ # # 覚えてた 言葉 も 忘れちゃった

やっとシナノキを、えっと、覚えてた言葉も忘れちゃった

- (3) nipesni an wa oro ta ku=se nimotu ranke wa
シナノキ ある/いる て そこ に 1SG.A=背負う 荷物 下ろす て
sassoku nipesni or un ko.. ku.. ku=terke⁴ wa
さっそく シナノキ ところ へ # # 1SG.A=飛びつく(?) て
シナノキがあって、そこに私が背負っていた荷物を下ろして、さっそくシナノキに飛び
ついて
- (4) pewre nipesni ne kusu earkinne mukiyasui, k=eyaykopuntek kor
若い シナノキ COP から 本当に 剥きやすい 1SG.A=喜ぶ て
poronno ku=kar
たくさん 1SG.A=採る
若いシナノキだから本当に剥きやすい、私は喜びながらたくさん採った
- (5) hine cuwan ne an kusu ipe=an ro sekor hawas wa
そして 昼飯 に なる から 食べる=1PL.S.INCL FP QUOT 声がする て
そして、昼になるから食べましょうという声が聞こえて
- (6) minna katamatte ohiru no ipe okere wa suy nipesni ko-terke kusu
みんなかたまってお昼の 食事 終わる て また シナノキ APPL-飛びつく ので
yama sa hairu
山さ入る
みんなで集まって昼食をおえて、またシナノキに飛びつくために山へ入る
- (7) sono hi wa kimoti ii hodo nipes kep wa k=eyaykopuntek
その日は気持ち良いほど シナ皮 剥ぐ て 1SG.A=喜ぶ
その日は気持ちがいいほどシナ皮を剥いで嬉しくなった
- (8) akusu “onuman ne an kusu aep sitaku sinaiba nannai kara, omae mo itte
すると 夜 に なる から 食べ物 支度しないばなんないから お前も行って
eani mo itte ikasuy se” sekor acapo hawean wa suke kusu
2SG.PRON も行って 手伝う せ QUOT おじさん 言う て 炊事する ため
ikasuy kor an⁵
手伝う て いる/ある
すると、「夜になるから食事の支度をしなくてはならない、お前も行って手伝いなさい」
とおじさんが言うので、炊事のため手伝っていた
- (9) kani anakne mesitte yuu mono nanka a=e sita koto mo nai sore koso
1SG.PRON TOP 飯ってゆうものなんか 4.A=食べる したこともない それこそ

⁴ 「ku=terke (私が跳ねる)」では、文脈上いまひとつ意味がつかめない。(6)では「nipesni ko-terke (シナノキに飛びつく)」と表現しており、ここも「ko-terke (～に飛びつく)」の可能性もある。ただし、「シナノキに飛びつく」という言い回しがどのような意味を表すかは、引き続き検討していきたい。

⁵ テキスト 1、2 では、一緒に山へ行った人々について「acapo (おじさん)」「unarpe (おばさん)」と表現しているが、イタカンローのテキストではそれぞれ「ku=yupo」「ku=sapo」と表現している。イタカンローのテキストの日本語訳では「おじさん」「おばさん」とあるが、「ku=yupo」は「兄さん」、「ku=sapo」は「姉さん」という意味になる(アイヌ文化振興・研究推進機構 1998)。

wenkur ne kusu sayo patek k=e wa poro pe ne kusu
 貧乏人 COP ので 粥 ばかり 1SG.A=食べる て 大きくなる NMLZ COP ので
 私はお米のごはんというものは食べることもない貧乏人だったので、お粥ばかり食べて
 大きくなったものなので

- (10) te ta an yak.. te ta amam suwe yakun sayo somo ki⁶
 ここで いる/ある # ここで 米 炊く なら 粥 NEG する
 mesi ne an wa k=eyaykopuntek
 飯 に なる て 1SG.A=喜ぶ
 ここでお米を炊くならば、お粥ではなくお米のごはんになるから嬉しい

- (11) mezurasii aep k=e rusuy kor an am.. a=e
 珍しい 食べ物 1SG.A=食べる DESID て いる/ある # 4.A=食べる
 hawe ne sekor ha.. yay.. ku=yaynu kor
 NMLZ COP QUOT # # 1SG.S=思う て
 珍しい食べ物を食べたくて、食べるんだと思って

- (12) tane moo sirkunne ka ape ari, poro ape ari ki p ne kusu
 今 もう 暗くなる も 火 焚く 大きい 火 焚く する NMLZ COP から
mawari wa akarui
 周りは明るい

もう暗くなったけども、大きな火を焚いているものだから周囲は明るい

- (13) sosite, minna de tyawan ni irete moratte tabeyooto sita toki ni
 そして みんなで茶碗に入れてもらって食べようとしたときに
 そして、ごはんを茶碗に入れてもらってみんなで食べようとしたときに

- (14) hemanta cikap ape sam ape.. ape ue, unto.. ape eka..es.. unto nantake na
 何 鳥 火 そば # 火 上 # 火 # # # なんだけな
 何か鳥が、火のそば、火の上、なんだけな

- (15) hi no ue kara ni kai gurai gurugurutto mawari nagara, ano, nakinagara ni kai gurai mawatte
 火の上から二回ぐらいぐるぐるっと回りながら # 鳴きながら二回ぐらい回って
 hinak un ka arpa
 どこ へ か 行く
 火の上で二回ほどぐるぐる回りながら鳴いてどこかへ行った⁷

⁶ 「お粥ではない」という名詞述語の否定では、「sayo somo ne (sayo 粥、somo NEG、ne COP)」のようなコピュラ動詞の否定表現が予期されるが、ここでは「sayo somo ki (sayo 粥、somo NEG、ki する)」という動詞述語の否定表現となっている。偶発的な言い誤りであるのか、あるいは吉村氏のアイヌ語の特徴であるのかについては今後も検討を続ける。また、本稿査読者から「ここで米を炊くなら、粥はつくらない。飯米になる…」を意味している可能性はないか」とのご指摘をいただいた。貴重なご指摘に感謝し、今後、検討したい。

⁷ イタカンローのテキストでは当該箇所を「hemanta cikap ape en=kasike ta otu suy re suy cis kor maw na (hemanta 何、cikap 鳥、ape 火、en=kasike 1SG.O=上、ta に、otu 二、suy 回、re 三、suy 回、cis なく、kor ながら、maw 飛ぶ?、na ぞ)」「なにか鳥が火の上に何回も何回も泣きながら飛び回る」と表現している(アイヌ文化振興・研究推進機構 1998)。

- (16)hemanta cikap ene sirkunnean pe ek ruwe sekor ku=yaynu kor
 何 鳥 こう 暗くなる NMLZ 来る INFR.EV QUOT 1SG.S=思うて
 an akusu
 いる/ある と
 何の鳥がこのようにあたりが暗いのに来たもんだと思っていると
- (17)aep minna ao.. oyepi oro omare wa un=kore wa k=eyaykopuntek
 食べ物 みんな # 茶碗 中 入れる て 1PL.O=くれる て 1SG.A=喜ぶ
 wa poronno a=e yakun sekor ku=yaynu kor an akusu
 て たくさん 4.A=食べる なら QUOT 1SG.S=思うて いる/ある と
 食べ物をみんな茶碗に入れてもらって、喜んでたくさん食べようと思っていたのに
- (18)ne cikap hinak un ka arpa okake ta
 その鳥 どこ へ か 行く 後 に
 その鳥がどこかへ行った後に
- (19)sugu hemanta kikir apto ruy siri neno watasidati iru eka.. e.. eka..
 すぐ 何 虫 雨 激しい VIS.EV 同じく 私だちいる # # #
ue ni ni san kai, ni, san kai mo go rok kai mo ame huru mitaini
 上に二、三回も五、六回も雨が激しく降るみたいに
 すぐに何か虫が、私たちのいる上に、二、三回も五、六回も雨が激しく降るみたいに
- (20)apto ruy suru mitai ni tonde kite ki no happa ni mo arare ga otite
 雨 激しい するみたいに飛んできて木の葉っぱにもあられが落ちて
oto o suru kurai no oto o tate nagara nanman biki ka no musu ga tonde kite
 音をするくらいの音を立てながら何万匹かの虫が飛んできて
 雨が激しく降るみたいに飛んできて、木の葉っぱにも霰が音を立てて落ちるかのように
 何万匹かの虫が飛んできて
- (21)ima tabeyoo to site ita tyawan yara oyepi, oyepi yara su oro ka
 今食べようとしていた茶碗やら 茶碗 茶碗 やら 鍋 中 も
 ne kikir oma wa a=e ka eaykap
 その 虫 入る て 4.A=食べる も できない
 いま食べようとしていた茶碗や鍋の中にもその虫が入ってしまい食べられない⁸
- (22)sekkaku pirka aep a=e.. taberareru ka to omotte k=eyaykopuntek a p
 せっかく 良い 食べ物 # 食べられるかと思って 1SG.A=喜ぶ PERF NMLZ

⁸ イタカンローのテキストでは、この虫を「rapkorkikir (rap 羽、kor 持つ、kikir 虫)」「羽のもつあり (原文ママ)」と表現している。また、当該箇所を「cikuni ham ka ta ka rapapse humihi ka a=nu pakno rapkorkikir apto ruy siri neno rapapse / su or un ka a=oyep or un ka kikir oma wa ipe ka eaykap (cikuni 立ち木、ham 葉、ka 上、ta に、ka も、rapapse 落ちる、hum-ih 音-POSS、ka も、a=nu 4.A=聞く、pakno ほど、rapkorkikir 羽をもつ虫、apto 雨、ruy 激しい、siri 様子、neno 同じく、rapapse 落ちる/su 鍋、or ところ、un へ、ka も、a=oyep 4.(A)=茶碗、or ところ、un へ、ka も、kikir 虫、oma 入る、wa て、ipe 食べる、ka も、eaykap できない)」「立ち木の葉っぱにもこぼれる音が聞こえるまで羽のもつありが雨のごとくこぼれる/鍋のなかやおわんの中にその虫が入る」とアイヌ語で表現している (アイヌ文化振興・研究推進機構 1998)。

ene an wa ipe ka eaykap

こう ある/いる て 食べる も できない

せっかくすばらしい食べ物を食べられると思って喜んでいたのに、こういうことがあ
って食べることもできない

(23) minna tyawan sita sa oite doo suru koto mo dekinai sono ban wa

みんな茶碗下さ置いてどうすることもできないで その晩は

moo doo.. doo suru koto mo dekinai ipe mo somo ki no

もう # どうすることもできないし 食べる も NEG する て

みんな茶碗を下に置いて、その晩はもうどうすることもできないし、食べもしないで

(24) nabe sa hairu tyawan sa hairu musi nekatte kuu koto mo dekinai

鍋さ入る茶碗さ入る虫ねかって食うこともできない

doo suru koto mo dekinakute minna bangohan yamete sosite katazuketetakke ato..

どうすることもできなくて みんな晩ごはんやめて そして片付けてたっけ #

鍋にも茶碗にも入る虫のせいで食べることもできない、どうすることもできなくて、み
んな夕食をやめて片づけをしていたら

(25) “hokke⁹ ka na hayai” sekor acapo hawean kor ukoysa..

寝る も まだ 早い QUOT おじさん 言う て #

u-ko-isoytak kor oka=an akusu acapo ene hawean

互い-APPL-話す て いる/ある=1PL.S.INCL と おじさん こう 言う

「寝るにもまだ早い」とおじさんが言って、お互いにいろいろな話をしていると、おじ
さんがこう言った

(26) “nisatta ne yakun suy sinki=an pakno moy moyke sinaiba nai kara

明日 になる なら また 疲れる=1PL.S.INCL ほど 動く しないばないから

ecioka anakne hokure yan¹⁰ hopuni kor an yakka aep ka

2PL.PRON TOP 早く IMP.FP 起きる て いる/ある ても 食べ物 も

isam wa doo suru koto mo dekinai

ない て どうすることもできない

「明日になったらまた疲れるほど動かなければならないから、お前たちは早く寝な
さい。起きていても食べる物もなくてどうすることもできない

(27) kani anakne eci.. ecioka epunkine kusu ape uska eaykap wa

1SG.PRON TOP # 2PL.PRON 守る から 火 消す できない て

ape ruy.. ape ruy hi eanioka¹¹ epunkine kusu ku=hokke ka nukuri

火 # 火 激しい NMLZ 2PL.PRON 守る から 1SG.S=寝る も できない

⁹ 田村 (1996:205) によると「hokke (寝る)」は「東部方言で hokke ホッケと発音されるが、沙流・鶴川ほか広い地域では hotke ホッケの「ッ」は t であり、つまる音ではない。ホッケのように発音する」という。一方、吉村氏の発話は基本的に[hokke]であるため、「hokke (寝る)」と表記している。

¹⁰ 本来は「hokure (早く)」と「yan (IMP.FP)」の間に動詞が入って「早く～なさい」という命令文となる。

¹¹ 「eani.. oka」と少し詰まったように発話している。前後の文脈上「ecioka (2PL.PRON)」と言うべきところを「eani (2SG.PRON)」と表現してしまったため、途中で訂正した言い誤りと考えられる。

wa ku=hopuni kor ape ari wa ecioka o banpe suru kara
 て 1SG.S=起きる て 火 焚く て 2PL.PRON をばんぺ (番兵) するから
 私はお前たちの番をするのに火を消すこともできなくて、火が激しく燃えるときは、お前たちを守るために寝ることもできないから、私が起きて火を焚いてお前たちを見張るから

- (28)nisatta suy ekimne paye kusu ne na hokke yan” sekor hawean
 明日 また 山へ 行く ため COP FP 寝る IMP.FP QUOT 言う
 明日はまた山へ行くつもりだから寝なさい」と (おじさんが) 言った

- (29)sono toki yo nin de ittan da ne onna san nin, wati irete onnna san nin
 そのとき四人で行ったんだね 女三人 わち入れて女性三人
 そのときは四人で行ったんだね、私を入れて女は三人

- (30)sosite sono acapo yuun mon da kara kondo¹², hutari wa onazi tosi gurai da kara
 そしてその おじさん ゆうもんだから こんど 二人は同じ年ぐらいだから
ano.. otagai ni nete ite mo hanasi sinagara neteru
 # お互いに寝ていても話ししながら寝てる
 そしてそのおじさんが言うものだから、女性二人は同じ年代くらいなのでお互いに話し
 ながら横になっている

- (31)wati wa sono yoko de hitori de “yaa bakakusai, sekkakudanoni” to omotte nipes wa
 わちはその横で一人で やあばかくさい せっかくのだのにと思って シナ皮 は
takusan ii nipes wa takusan tottan dakedo mo aep sore koso isam wa
 たくさん良いシナ皮 は たくさん採ったんだけど 食べ物 それこそ ない て
 私はその横で「やあ、ばかくさい、せっかくなの」に」と思って、良いシナ皮はたくさん
 採ったのだけれども、食べる物はまったくなくて

- (32)honto ni mottainai nasakenai to omoinagara ku=hokke korka kani anakne
 ほんとにもったいない情けないと思ひながら 1SG.S=寝るけれど 1SG.PRON TOP
 pewre p ne kusu nani ku=mokor
 若い NMLZ COP から すぐ 1SG.S=眠る
 本当にもったいない、情けないと思ひながら横になったけれど、私は若かったのですぐ
 に眠った

- (33)unarpe utar anakne nep ka isoytak kor an siri ku=nu kor
 おばさんたち TOP 何 か 話す て いる/ある VIS.EV 1SG.A=聞く て
 kani anakne ku=mokor wa me ga samete mitakke moo akaruku natte ita mon da kara
 1SG.PRON TOP 1SG.S=眠る て 目が覚めて見たっけもう明るくなっていたもんだから
mata sono hi nipesni hunara wa nipes kep
 またその日 シナノキ 探す て シナ皮 剥ぐ
 おばさんたちが何か話しているのを聴きながら私は眠って、目が覚めたらすでに明るく

¹² 田村 (1996:328) によると日本語の「こんど (今度)」からの借用と考えられるアイヌ語の副詞「konto」は、『それから』のようなつなぎ言葉として会話の中や民話を語っている中でしばしば時をかせぐために使われる」という。吉村氏の談話でもつなぎ言葉のような用法の「こんど」がしばしば現れる。

なっていたものだから、その日はまたシナノキを探してシナ皮を剥いだ

- (34) asa wa nan demo nakatta kara aep kar wa poronno e wa
 朝は何でもなかったから 食べ物 作る て たくさん 食べる て
 k=eyaykopuntek korka suy nipesni hunara wa nipes kar kor
 1SG.A=喜ぶ けれど また シナノキ 探す て シナ皮 採る て
 k=an akusu

1SG.S=いる/ある と

朝は何でもなかったから、食べ物を作ってたくさん食べて嬉しかったけど、またシナノキを探してシナ皮を採っていると

- (35) suy ohiru da karatte yutte kuneywa, ipe.. ipe.. ipe.. ipe.. kuneywaipe
 また お昼だからってゆって 朝 # # # # 朝食
 aep suy an pe ne kusu sore cuwan ne wakete a=e
 食べ物 また ある/いる NMLZ COP から それ 昼飯 に わけて 4.A=食べる
 またお昼だからっていつて朝食の食べ物があるので、それを昼食に分けて食べた

- (36) oro wa suy mata nipes kep wa tanukuran anakne
 そこから また また シナ皮 剥ぐ て 今晚 TOP
 hosipi kusu ne na sekor acapo hawean kor
 帰る ため COP FP QUOT おじさん 言う て
 それからまたシナ皮を剥いで、今晚は帰るつもりだよとおじさんが言って

- (37) mata hiru kara nipes poronno ku=kar
 また昼から シナ皮 たくさん 1SG.A=採る
 また昼からシナ皮をたくさん採った

- (38) kani un yokatta no ka tottemo pirka nipes patek ku=nukar pe
 1SG.PRON 運良かったのかととても 良い シナ皮 ばかり 1SG.A=見る NMLZ
 ne kusu poronno se korka omotai gurai mo torimasita
 COP から たくさん 背負う けれど 重たいぐらいも採りました
 私は運が良かったのか、とても良いシナ皮ばかり目にするものだから、たくさん（採って）背負ったけれど、重たいぐらいもシナ皮を採った

- (39) “moo onuman ne an kusu hosipi=an ro” sekor acapo hawean wa
 もう 夕方 になる から 帰る=1PL.S.INCL FP QUOT おじさん 言う て
 「もう夕方になったから帰ろう」とおじさんが言って

- (40) apekes poronno an yatu opitta ota ka.. cakke¹³ wa keyasite
 燃えさし たくさん ある/いる やつ すべて 砂 # 開く(?) て 消やして

¹³ 「cakke」はテキスト1 (52) の例のとおり、鶴川方言で「開く」という意味の動詞として用いられる語である。火を消すために砂をかけることを「cakke」というかは不明である。本稿査読者から「これは燃えさしの炭が複数集まっているのをばらけさせてから火を消したという、意味かと想像した」というご指摘をいただいた。今後、類例を確認して検討を続けたい。なお、筆者による吉村氏への調査においては、消火などで砂をかけることを「ota kamure (～に砂をかぶせる)」と表現することがあった。

sosite nimotu syotte usuguraku narigake ni yama kara sagatte cise or un hosipi kusu
 そして荷物背負って薄暗くなりがけに山から下がって 家 ところ へ 帰る ため
yama kara sagatte kitara usiro kara
 山から下がってきたら後ろから
 薪の燃えさしがたくさんあるのをすべて砂で消して、そして、家に帰るために荷物を背
 負って、薄暗くなりがけに山から下りてきたら背後から

- (41) “tyotto mate kora!” sekor hawean kur an wa nukar akusu yamanusi
 ちょっと待てこら QUOT 言う 人 いる/ある て 見る と 山主
 ne a an pe ne na
 COP PERF ある/いる NMLZ COP FP

「ちょっと待てこら！」と言う人がいて、見ると山主（山の所有者）だったのだ

- (42) “omaedaci, hito no yama sa kite sono katteni sono hitono ki taosutte, ne? atarimae ka?”
 お前だち 人の山さ来てその勝手にその人の木倒すって ね 当たり前か
 sekor aen.. aye.. ye kor coka utar koyki kor an
 QUOT # # 言う て 1PL.PRON たち 怒りつける て いる/ある
 「お前たち、人の山に来て勝手に人の木を倒すのが当たり前なのか？」と言って、私た
 ちを怒りつけている

- (43) yakka sekkaku kar nipes kureru ka to omottakke opitta nata tomo ni
 でも せっかく 採る シナ皮 くれるかと思ってたっけ すべて 鉦ともに
torarete simai masita
 取られてしまいました
 でもせっかく採ったシナ皮なので、（山主が）くれるかと思っていたら、鉦とともにす
 べて取られてしまった

- (44) honto ni naite mo tarinai kurai kuyasii nagara kani uti kitara
 ほんとに泣いてもたりないくらい悔しいながら 1SG.PRON うち来たら
 本当に泣いても泣きたりないくらい悔しく思いながら家に着いたら

- (45) hapo ni numan anakne ene an
 母 に 昨日 TOP こう ある/いる
 母に昨日はこうだった（と話した）

- (46) tanto anakne uk pe ka opitta a=koyki wa uk-sarete sekor
 今日 TOP 取る NMLZ も すべて 4.A=怒りつける て 取る-されて QUOT
 ku=cis kor hapo sa iyonnuppa akusu
 1SG.S=泣く て 母 さ 訴える と
 今日は取ったものもみんな（山主に）怒りつけられて取り上げられてと、私が泣きなが
 ら母に訴えると

- (47) hapo cis kor ku=tek-e ruyruypa wa
 母 泣く て 1.(A)=手-POSS 手を取る て
 母は泣きながら私の手を取って

- (48) “zibun tumannai bakari ni, omae bakari ni me ni awasete, nakasete, sikatanain da,
自分つまんないばかりに お前ばかりに目に遭わせて 泣かせて 仕方ないんだ
gaman se, gaman se, moo doo suru koto mo dekinain da kara gaman se, gaman se”
我慢せ 我慢せ もうどうすることもできないんだから我慢せ 我慢せ
sekor hawean
QUOT 言う
「自分が甲斐性ないばかりに、お前にばかり辛い目に遭わせて泣かせてしまって、どう
することもできないんだから、我慢しなさい、我慢しなさい」と言った
- (49) dakedo, wasi mo naita kedo hapo mo naita mitai datta
だけど わしも泣いたけど 母 も泣いたみたいだった
だけど、私も泣いたけど母も泣いたみたいだった
- (50) oro wa sibaraku yomne wa cise or un arpa ka somo ki p..
そこから しばらく 懲りる て 家 ところ へ 行く も NEG する NMLZ
de nai kim ta arpa ka somo ki p ne akusu
でない 山 に 行く も NEG する NMLZ COP と
それからしばらくは懲りて (家に行かない、じゃなくて)、山に行かないものだったが
- (51) hempara ne yakka hutatuki kurai tatte kana, unto.. yakuba kara yoozi aru kara koitte
いつ COP でも ふた月くらいたってかな # 役場から用事あるから来いって
ano.. tegami kiteru kara itte mite koitte iyapo hawean wa
手紙来てるから行ってみてこいって 父 言う て
いつだったか¹⁴、2 か月くらい経ってだったかな、役場から用事があるから来なさいと
手紙が来てるから行ってみてこいと父が言って
- (52) kani mitai na makkaci¹⁵ hemanta a=en=ye kusu kani k=arpa
1SG.PRON みたいな 少女 何 4.A=1SG.O=言うため 1SG.PRON 1SG.S=行く
hawe ne sekor ku=yaynu kor k=arpa akusu
NMLZ COP QUOT 1SG.S=思う て 1SG.S=行く と
私みたいな少女が一体何を言われに行くのだと思いながら行くと
- (53) apa cakke wa cise onnayke or un ahun akusu poronno nata narabete
戸 開く て 建物 中 ところ へ 入る と たくさん 鉦並べて
genkan no toko ni narabete atte
玄関のところに並べてあって
戸が開いて (役場の) 建物の中へ入ると、玄関のところにたくさんの鉦が並べてあって
- (54) “omae, hukko ka?”
お前 ふっこか

¹⁴ 「hempara ne yakka (hempara いつ、ne COP、yakka ても)」は「いつでも」と訳すことができるが、これでは文脈上いまひとつ意味がつかめない。暫定的に「いつだったか」と訳しておく。

¹⁵ 鶴川方言周辺の沙流方言や千歳方言などでは「makkaci (女の子)」という語形で記述されているが (中川 1995、田村 1996、萱野 2002)、吉村氏の発話は基本的に[makkatei]であるため、「makkaci (女の子)」と表記している。

「お前、ふっこ（冬子）か？」

(55)“hai”

はい

「はい」

(56)“kokoni omae no mioboe aru mon, nata nai ka?” tte iwarete mite mitara

ここにお前の見覚えあるもん 鉈ないか って言われて見てみたら

sono sina hagi sita toki ni torareta nata ga atte ne

そのシナ剥ぎしたときに取られた鉈があってね

「ここにお前の見覚えのある鉈はないか？」と言われて見てみたら、シナ皮を剥ぎに行
ったときに（山主に）取られた鉈があってね

(57)“kore watasi no da to omou kedo mo” tte yuttakke

これ私のだと思うけども ってゆったっけ

「これ、私の鉈だと思うけども」 って言ったら

(58)“sooka, moo owatta koto da kara sikatanai kedo mo, korekara mo mada yama sa nanka

そうか もう終わったことだから仕方ないけども これからもまだ山さなんか

ikunde nai, hito no yama sa nanka damatte iku mon de nai yo, ano.. doroboo ni

行くんでない 人の山さなんか黙って行くもんでないよ # 泥棒に

narun da kara ne, ttara, sono nata yaru kara kaere” tte yakuba de soo yuwarete ne

なるんだからね ったら その鉈やるから帰れって 役場でそうゆわれてね

「そうか、もう終わったことだから仕方ないけど、これからも人の山に黙っていくもの
ではないよ、泥棒になるんだからね、その鉈は返すから帰りなさい」と役場で言われて

(59)aa, nata bakari mo kaesarete yokatta wa, donna koto yutte okorarerun da be to omotte

INTJ 鉈ばかりも返されて良かったわ どんなことゆって怒られるんだべと思って

sinnpai sii sii itta kedo mo, ii anbai ni nata dake de mo moratte uti ni motte kaetta

心配しいしい行ったけども いいあんばいに鉈だけでももらってうちに持って帰った

ああ、鉈だけでも返してもらえて良かったわ、どんこと言われて怒られるのだろうか

と思って心配しながら行ったけども、いいあんばいに鉈だけでも返してもらって、家に
持って帰った

(60)sitara, “huun” tte, ano, titioya mo hahaoya mo “huun” tte yutta dake de

したら INTJ って # 父親も母親も INTJ ってゆっただけで

un, sore kara wa anmari sono yama sa wa ikanai kedo, demo.. demo ikanakereba

それからはあんまりその山さは行かないけど # でも行かなければ

sinakawa nakereba itese mo dekinai, kane miru koto dekinai

シナ皮 なければ 莫莖編み もできない 金見ることもできない

そしたら、父も母も「ふーん」 って言っただけで、それからはあまりその山には行かな
いけど、でも行ってシナ皮を採らなければ莫莖編みができず、お金が得られない

(61)sono sinakawa wa nama de tiisaku saite, koo nawa ni natte ne, tyanto koo kui tateta,

そのシナ皮は生で小さく裂いて こう縄になってね ちゃんとかう杭立てた

hakatta mono ga atte sa, sore ni koo guruguru guruguru koo maite

計ったものがあってさ それにこうぐるぐるぐるぐるこう巻いて

kono gurai no taba de ne, kono gurai no taba ni ne, sita yatu o nooka sa mottekeba

このぐらゐの束でね このぐらゐの束にね したやつを農家さ持ててけば

ureru no, nama de, sinakawa ne

売れるの 生で シナ皮ね

シナ皮は生で小さく裂いて縄になって、杭を立てた計ったものにぐるぐる巻いて束にしたものを農家に持てていけば、シナ皮は生で売れた¹⁶

(62)nooka no hito wa ne, mukasi, kugitte yuu no nai kara, naya tateru toki ni

農家の人はね 昔 釘ってゆうのないから 納屋建てるときに

yosi de syo, dakara, ano waranawa de tukau yori mo sinakawa no hoo ga zyoobu da kara

葦でしょ だから # 藁縄で使うよりもシナ皮のほうが丈夫だから

katte kureru no sa

買ってくれるのさ

昔は釘がなかったから、農家の人が納屋を建てるときには葦を使う。だから、藁縄よりもシナ皮（の縄）のほうが丈夫だから買ってくれるの

(63)soo yuu koto mo attasi sa, dakara sonna koto de honto ni ironna kuroo sinagara de mo

そうゆうこともあったしさ だからそんなことでほんとにいろんな苦労しながらでも

seekatu site, sore koso oya to naite mitari yorokonde mitari, sonna omoi site

生活して それこそ親と泣いてみたり喜んでみたり そんな思いして

yoku kore made ikite kita mon da to omoimasu

よくこれまで生きてきたもんだと思います

そういうこともあって、本当にいろんな苦労をしながらでも生活して、親と泣いてみたり喜んでみたり、そんな思いをしてよくこれまで生きてきたものだと思う

3.1.2 テキスト 2

採録日：2014 年 10 月 4 日

テキスト収録時間：18 分 23 秒

(1) nipes, kani kim ta k=arpa wa nipes kep wa poronno

シナ皮 1SG.PRON 山 に 1SG.S=行く て シナ皮 剥ぐ て たくさん

ku=kar wa k=eyaykopuntek

1SG.A=採る て 1SG.A=喜ぶ

私は山に行ってシナ皮を剥いで、たくさん採って喜んで

¹⁶ 吉村氏によると、シナ皮剥ぎはシナノキに水気がある 6 月から 7 月いっぱい季節に行っていたという。採ってきたシナ皮の量にもよるが、父親と母親でシナ皮を分け、父親は生のシナ皮をすぐに裂いてシナ縄を編み、母親はシナ皮を煮たり水に浸けてから乾かし、細く裂いて ka (シナ糸) を縫っていたという。母親はシナ糸を使って莫蔭編みをし、吉村氏は父親が編んで束にしたシナ縄や母親が作った citarpe (莫蔭) を農家に売って生計の足しにしていたという (2014 年 9 月 20 日調査)。

- (2) taan pe ku=se wa uni un arpa wa hapo or un nukar-e
 このもの 1SG.A=背負う て 家 へ 行く て 母 ところ へ 見る-CAUS
 yakun makanak hapo eyaykopuntek pe ne na sekor ku=yaynu kor
 なら どう 母 喜ぶ NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=思う て
 これを背負って家に行って母に見せたなら、どんなに母は喜ぶものだと思いますながら
- (3) k=eyaykopuntek kor ne nipes ku=se wa hosipi yakka
 1SG.A=喜ぶ て その シナ皮 1SG.A=背負う て 帰る けど
 私は嬉しくなって、そのシナ皮を背負って帰ったけれど
- (4) nan nin kurai itta na, yo nin kurai de itte da ne, sinep, tup, rep, inep,
 何人くらい行ったな 四人くらいで行ってだね 一つ 二つ 三つ 四つ
 inep tura arpa wa acapo, sinep acapo an wa
 四つ 一緒に 行く て おじさん 一つ おじさん いる/ある て
 何人くらいで行ったかな、四人くらいで一緒に行って、おじさんが一人いて
- (5) ne acapo tayori ni k=arpa, ku=kar
 その おじさん 頼りに 1SG.S=行く 1SG.A=採る
 そのおじさんを頼りに行って、シナ皮を採った
- (6) makanak hapo eyaykopuntek pe ne na sekor ku=yaynu kor
 どう 母 喜ぶ NMLZ COP FP QUOT 1SG.S=思う て
 k=eyaykopuntek kor ku=hosipi akusu
 1SG.A=喜ぶ て 1SG.S=帰る と
 どんなに母が喜ぶものだと思いますしながら私は喜んで帰ると
- (7) etok-o yamanusi ek wa iruska wa “makanak iki kusu hito no yama sa
 先-POSS 山主 来る て 怒る て どう する ため 人の山さ
hairun da!” sekor hawean
 入るんだ QUOT 言う
 その前に山主が来て怒って「どうして人の山に入るんだ！」と言った
- (8) iyotta iruska kor ku=se nipes ka a=uk-sareru¹⁷ nata ka
 非常に 怒る て 1SG.A=背負う シナ皮 も 4.A=取る-される 鉈 も

¹⁷ 能動・受動の態の変換は、アイヌ語と日本語で文法的な特徴が異なる。一般的な能動文を受動文に変換する場合、日本語は能動文の目的語を主語に昇格させ、動詞に受動の助動詞「-(r)are」を加えて受動文に変換する。一方、アイヌ語は、目的語から主語への昇格はなく、動詞を不定人称主語の語形にすることで受動に相当する表現を可能としている（中川 2024）。テキスト2の(8)では「a=uk (4.A=取る)」で不定人称主語による「取る」の受動表現が成立しているが、さらに日本語の動詞「する」に受動の助動詞が加わった「sareru」が付き、「a=uk-sareru (lit. 誰かが～を取る+される)」というハイブリッドな受動表現となっている。吉村氏の談話においては、このような受動表現が散見される（テキスト1の(46)、テキスト2の(8)(23)(50)(58)に出現）。アイヌ語の受動表現は、主語が不定人称となって背景化される一方、目的語は能動文と変わらず目的語のままである。「a=uk」は「(私のシナ皮/鉈)を誰かが取る」となり、『(私のシナ皮/鉈)を誰かが取る』(ということを私が)される」という表現で、行為の受け手の受動性をより明確にしている可能性もある。吉村氏のトランスリンガルな言語実践の記述は、今後の課題である。なお、本稿査読者から本形式の特異性にかんして説明するよう指摘を受けた。指摘に感謝し、本脚注を追記する。

a=uk-sareru

4.A=取る-される

非常に怒って、私が背負っていたシナ皮も（山主に）取られ、鉈も取られた

- (9) ku=cis kor ku=hosipi wa ene an isoytak hapo eun ku=ye akusu
 1SG.S=泣く て 1SG.S=帰る て こう ある/いる 話 母 に 1SG.A=話すと
 私になきながら帰って、こういった話を母に話すと

- (10) hapo kani ba daku yoo ni daite “eani patek ne
 母 1SG.PRON ば抱くように抱いて 2SG.PRON ばかり に
muzukasii sigoto sasete kinodoku da, sikatanai, torareta mono wa sikatanai kedo mo
 難しい仕事させて気の毒だ 仕方ない 取られたものは仕方ないけども
kega bakari mo sinaide kaette kitan dara yokatta” tte yutte
 怪我ばかりもしないで帰ってきたんだら良かったってゆって
 母は、私を抱くように抱いて「お前ばかりに難しい仕事をさせて気の毒だ、取られたも
 のは仕方ないけども、怪我しないで帰ってきたなら良かったと言って

- (11) hapo yorokonde, yorokondari naitari otagai ni dakiatte naki.. naitari sita koto
 母 喜んで 喜んだり泣いたりお互いに抱き合って # 泣いたりしたこと
atta kedo mo
 あったけども

母が喜んだり泣いたり、お互いに抱き合って泣いたりしたことがあったけども

- (12) sore kara sibaraku ikuno o yamete, yasunde ita kedo, yahari nipes nakereba
 それからしばらく行くのをやめて 休んでいたけど やはり シナ皮 なければ
hapo no sigoto ga nai mon desu kara
 母 の仕事がないもんですから
 それからしばらく行くのをやめて休んでいたけど、やはりシナ皮がなければ母の仕事が
 ないものだから

- (13) suy aw ta an acapo ne ya unarpe utar “arpa kusu ne na,
 また 隣 に いる/ある おじさん COP Q.FP おばさん たち 行く ため COP FP
 eani ka arpa yakun hokure sitaku sinasai” sekor hawean wa suy arpa wa
 2SG.PRON も 行く なら 早く 支度しなさい QUOT 言う て また 行く て
 また隣のおじさんかおばさんたちが「(シナ皮を剥ぎに) 行くから、お前も行くなら早
 く支度しなさい」と言うので、また行って

- (14) “sine ancikar rewsu kusu ne na, sono yooni sitaku site paye=an ro”
 一 晩 泊まる ため COP FP そのように支度して 行く=1PL.S.INCL FP
 sekor hawean, acapo hawean wa
 QUOT 言う おじさん 言う て
 「一晩泊まるつもりだから、そのように支度して行きましょう」とおじさんが言って

- (15) oro wa yo nin kana, de.. arpa p pe¹⁸ ne a p
 そこ から 四人かな # 行く NMLZ NMLZ COP PERF NMLZ
a.. tuita hi wa iti-niti nipes poronno kep
 # 着いた日は一日 シナ皮 たくさん 剥ぐ
 それから四人かな、行ったけど、着いた日は一日シナ皮をたくさん剥いだ
- (16) pirka pir.. nipesni ku=nukar pe ne kusu k=eyaykopuntek wa
 良い # シナノキ 1SG.A=見る NMLZ COP ので 1SG.A=喜ぶ て
 nipes poronno kep
 シナ皮 たくさん 剥ぐ
 良いシナノキを目にするものだから、私は喜んでシナ皮をたくさん剥いだ
- (17) sitakke onuman ne akusu acapo en=samake ta ek wa
 したっけ 夕方 に と おじさん 1SG.O=そば に 来る て
 “tane onuman ne an na, akarui uti ipe okere sitai kara
 もう 夕方 に なる FP 明るいうち 食べる 終わる したいから
 amam sitaku ki yan” sekor iwarete
 ごはん 支度 する IMP.FP QUOT 言われて
 そして、夕方になると、おじさんが私のそばに来て「もう夕方になるから、明るいうち
 に食べおえたいから、ごはんの支度をしなさい」と言われて
- (18) nipes kep yamete utura unarpe utar tura amam, ohaw
 シナ皮 剥ぐ やめて一緒に おばさん たち 一緒に 米 おつゆ
 ne ya kar wa sore koso uti ni itara sayo patek
 COP Q.FP 作る て それこそうちにいたら 粥 ばかり
 a=e p ne korka
 4.A=食べる NMLZ COP けれど
 シナ皮を剥ぐのをやめて、おばさんたちと一緒にお米のごはんとか、おつゆとか作
 って、それこそ家にいたらお粥ばかり食べるものだけだ
- (19) konban anakne amam mesi a.. a=e easkay pe ne na sekor
 今晚 TOP 米 飯 # 4.A=食べる できる NMLZ COP FP QUOT
 ku=yaykopuntek wa issyokenmee ipe etokoyki okere wa
 1SG.S(?)=喜ぶ て 一生懸命 食事 用意する 終わる て
 今晚はお米のごはんを食べることができるんだと喜んで、一生懸命、食事の用意をしお
 えて
- (20) “kuraku naru mae ni ipe okere sitai na” sekor acapo hawean wa
 暗くなる前に 食べる 終わる したいな QUOT おじさん 言う て
 「暗くなる前に食べおえたいな」とおじさんが言って

¹⁸ 形式名詞「pe~p」は、子音で終わる語に後続する際は「pe」、母音で終わる語に後続する際は「p」となるため、動詞「arpa (行く)」に後続して名詞句を形成する際には「arpa p (arpa 行く、pNMLZ)」でよいと考えられるが、ここでは「arpap pe (arpa 行く、pNMLZ、peNMLZ)」と形式名詞が重複して現れている。偶発的な言い誤りであるのか、あるいは吉村氏のアイヌ語の特徴であるのかについては今後も検討を続ける。

- (21) ne amam ka ohaw ka a=kar wa
 その米 も おつゆ も 4.A=作る て
 そのお米のごはんもおつゆも作って
- (22) yakka moo botubotu sirkunne wa ape ari, poro ape ari okari minna
 でも もうぼつぼつ 暗くなる て 火 焚く 大きく 火 焚く 周り みんな
 mono a wa
 静かに 座る て
 でももうぼちぼち暗くなってきて、大きな火を焚いて、その周りにみんなが座って
- (23) aep ne ya ohaw ne ya mesi ne ya eymek-sarete
 食べ物 COP Q.FP おつゆ COP Q.FP 飯 COP Q.FP 配る-されて
 k=eayaykopuntek aa, mesi a=e easkay
 1SG.A=喜ぶ INTJ 飯 4.A=食べる できる
 食べるものとか、おつゆだとか、お米のごはんだとか、配られて私は喜んで、ああ、お
 米のごはんが食べられる
- (24) mainiti de mo ij, konna mesi kuitai na, soo omoi nagara ipe kusu ne akusu
 毎日でもいい こんな飯食いたいな そう思いながら 食べる ため COP と
 毎日でも良い、こんなごはんが食べたいなと思いながら食べようとする
- (25) hemanta cikap ape okari takai toko kara ape okari ni kai ka san kai kurai cis kor
 何 鳥 火 周り 高いところから 火 周り 二回か三回くらい なく て
mawatte oyak un ne cikap arpa wa isam akusu
 回って よそ へ その 鳥 行く て いない と
 何の鳥か、火の周りを高いところ二、三回くらい鳴きながら回って、その鳥がよそへ行
 ってしまうと
- (26) sugu hemanta kikir ne ka moo sirkunne wa apto ruy siri neno
 すぐ何 虫 COP か もう 暗くなる て 雨 激しい VIS.EV 同じく
 rapapse
 落ちる
 すぐに何の虫かが、もう暗くなるなかで雨が激しく降るようにはらばらと落ちてきた
- (27) ki no happa sa made otiru no ni ame hutta mitai na oto tateru..., nagara nani ka musu
 木の葉っぱさまで落ちるのに雨降ったみたいな音立てる ながら何か虫
 kikir ape okari poronno rapapse
 虫 火 周り たくさん 落ちる
 木の葉っぱにまで落ちるのに、雨が降ったみたいな音を立てながら、何の虫かが火の周
 りにたくさんばらばらと落ちてきた
- (28) makanak iki siri ne sekor ku=yaynu ka acapo utar ka unarpe
 どう する VIS.EV COP QUOT 1SG.S=思う も おじさん たち も おばさん
 utar ka “iyohay!” sekor hawean kor
 たち も INTJ QUOT 言う て
 どうしたことだと思っても、おじさんたちも、おばさんたちも「おやまあ！」と驚きの

声をあげながら

- (29) ne a=kar pe ka oyepi yara su oro ka oma wa a=e ka
その 4.A=作る NMLZ も 茶碗 やら 鍋 中 も 入る て 4.A=食べる も
eaykap
できない
その私たちが作ったものも、茶碗やら鍋の中にも（虫が）入ってしまい、食べることも
できない

- (30) baka kusai na, sekkaku danoni sekor ku=yaynu kor somo e no
ばかくさいな せっかくだのに QUOT 1SG.S=思う て NEG 食べる て
hi ta oke.. yameta toki wa moo marukkiri sirkunne
とき に # やめたときはもうまるつきり 暗くなる
ばかくさいな、せっかくの食事なのにといいながら食べないで、食べるのをやめたとき
にはもうすっかり暗くなっていた

- (31) oro wa tyoppiro go hun ka zyup pun kurai unarpe ato dano acapo dano
そこ から ちょっぴり 5 分か 10 分くらい おばさん あと¹⁹ だの おじさん だの
iroirona isoytak kor an yakka
いろいろな 話す て いる/ある ても
それから 5 分か 10 分くらい、おばさんたちやおじさんがいろいろしゃべっていたけど

- (32) kani anakne pon makkaci ne kusu kani anakne nani itak
1SG.PRON TOP 小さい 女の子 COP から 1SG.PRON TOP なに 話す
sureba ii mono ka mo wakannai kara
すれば良いものかもわからないから
私は小さい女の子だったので、何を話せばいいのかもわからないから

- (33) unarpe utar itak hawe patek ku=nu kor k=an,
おばさん たち 話す NMLZ ばかり 1SG.A=聞く て 1SG.S=いる/ある
an akusu
いる/ある と
おばさんたちが話す話ばかり聞いていると

- (34) acapo “tane moo onuman nannimo dekinai kara nisatta suy ekimne
おじさん 今 もう 夕方 なんにもできないから 明日 また 山へ
apkas sinai ba nai kara ecioka anakne hokke yan
歩く しないばないから 2PL.PRON TOP 寝る IMP.FP
おじさんが「もう夕方でなんにもできないから、明日また山歩きしなければならないか
ら、お前たちは寝なさい

¹⁹ 小野・奥田 (1999 : 159-160) は、アイヌ語の話者の日本語における語彙面にみられる母語の影響の一例として接尾辞の「アタ (方)」の多用をあげ、「アタはガタ (方) からの音変化によって成立したものであろう。もともとは経緯が含まれていたと思われるが (中略) 敬称ではなくて単に複数を示す接尾辞とみるべきであろう」と述べている (中略は筆者による)。吉村氏の「あと」もこれにあたり (テキスト 2 の (31) (61) に出現)、主に人間を指す名詞に接尾し、近似複数を表すのに多用される。

- (35) nisatta suy sinki kusu ne na hokke yan, kani anakne
 明日 また 疲れる から COP FP 寝る IMP.FP 1SG.PRON TOP
 ecioka epunkine kusu ape ari wa somo mokor no banpe suru kara
 2PL.PRON 守る ため 火 焚く て NEG 眠る て ばんぺ (番兵) するから
 hokke yan” sekor hawean
 寝る IMP.FP QUOT 言う
 明日はまた疲れるから寝なさい、私はお前たちの番をするために火を焚いて眠らないで
 見張っておくから寝なさい」と言った
- (36) akusu unarpe utar anakne katamatte nep ka isoytak kor an
 すると おばさん たち TOP かたまって 何 か 話す て いる/ある
 yakka kani anakne makkaci, pon makkaci ne kusu
 ても 1SG.PRON TOP 女の子 小さい 女の子 COP から
 するとおばさんたちはかたまって何か話しているけど、私は小さい女の子だったので
- (37) tyoppiri hanarete nerette yuwareru mon da kara, neta kara moo makkaci ne kusu
 ちょっぴり離れて寝れてゆわれるもんだから 寝たから もう 女の子 COP から
 unarpe utar hemanta ye kor an ka k=erampewtek kor
 おばさん たち 何 話す て いる/ある か 1SG.A=わからない て
 ku=hokke akusu nani ku=mokor
 1SG.S=寝る と すぐ 1SG.S=眠る
 少し離れて寝なさいと言われるものだから、そうして横になって、私は女の子だからお
 ばさんたちが何を話しているのかわからないまま横になっていると、すぐに眠った
- (38) ku=sinki ka an pe ne kusu nani ku=mokor
 1SG.S=疲れる も いる/ある NMLZ COP から すぐ 1SG.S=眠る
 疲れてもいるものだからすぐに眠った
- (39) sirpeker akusu hopuni wa ipe etokoyki yan, tanukuran,
 明るくなる と 起きる て 食事 用意をする IMP.FP 今晚
yuube ka, yuube wa ipe ka somo ki no hokke=an pe ne na
 昨夜か 昨夜は 食べる も NEG する て 寝る=1PL.S.INCL NMLZ COP FP
 iperusuy kusu hokure ano.. suke yan” sekor acapo hawean wa
 空腹だ から 早く # 炊事する IMP.FP QUOT おじさん 言う て
 明るくなって起きて食事の用意をして、「昨夜は食べないで寝たもんだから空腹なので、
 早く炊事をしなさい」とおじさんが言って
- (40) unarpe utar suy amam, ohaw ne ya kar wa ne aep
 おばさん たち また ごはん おつゆ COP Q.FP 作る て その 食べ物
hazimete hara ippai naru hodo e
 はじめて腹いっぱいなるほど 食べる
 おばさんたちがまたごはんとかおつゆだかを作って、はじめて腹いっぱいになるほど食
 べた

- (41) ohiru nante nain da karayotte yuwarete, hara ippai tabete oisikatta keredo mo,
 お昼なんてないんだからよってゆわれて 腹いっぱい食べておいしかったけれども
sono yuube no amam ikaraski sekor yaynu yakka musi oma wa
 その昨夜の ごはん もったいない QUOT 思う ても 虫 入る て
 an pe ne kusu opitta osura
 いる/ある NMLZ COP から すべて 捨てる
 お昼ご飯なんてないからねといわれて、腹いっぱい食べておいしかったけども、昨夜の
 ごはんはもったいないと思っても虫が入っているものだからすべて捨てた
- (42) sono hi wa pirka nipes minna meemee ni yama sa haitte simatte kani sinenne
 その日は 良い シナ皮 みんなめいめいに山さ入ってしまつて 1SG.PRON 一人で
 ne betuna toko sa ittakke pirka pewre nipes poronno nipesni as.. an..
 COP(?) 別なところさ行つたつけ 良い 若い シナ皮 たくさん シナノキ # #
 nukar wa k=eyaykopuntek wa
 見る て 1SG.A=喜ぶ て
 その日はみんなめいめいに山には行つてしまつて、私は一人で別のところに行つたら、
 良いシナ皮、若いシナ皮のシナノキをたくさんみつけて嬉しくなつて
- (43) ne nipes poronno honto ni arikiki site poronno ku=kar wa
 その シナ皮 たくさん ほんとに 精を出す して たくさん 1SG.A=採る て
 akusu moo ohiru datte yuwaretatte aep ka moo isam
 すると もうお昼だつてゆわれたつて 食べ物 も もう ない
 そのシナ皮を本当に精を出してたくさん採ると、もうお昼だつていわれても食べるもの
 ももうない
- (44) moo sukosi ano.. tere yan, yakun ano uti.. uni un hosipi kusu ne na
 もう少し # 待つ IMP.FP なら # # 家 へ 帰る から COP FP
 sekor acapo hawean wa
 QUOT おじさん 言う て
 もう少し待ちなさい、そうすれば家に帰るからとおじさんが言つて
- (45) issyokenmee nipes ku=kar wa ku=se ka eaykap kurai
 一生懸命 シナ皮 1SG.A=採る て 1SG.A=背負う も できない くらい
 poronno ku=se
 たくさん 1SG.A=背負う
 一生懸命にシナ皮を採つて、私は背負うこともできないくらいたくさん背負つた
- (46) onuman ne an kusu ta.. cise or un hosipi kusu ne na sekor
 夕方 になる から # 家 ところ へ 帰る から COP FP QUOT
 acapo hawean wa nimotu ku=se wa ne acapo itiban ano..
 おじさん 言う て 荷物 1SG.A=背負う て その おじさん 一番 #
ketu kara tuite onna no hito, saki ni natte hosipi akusu
 ケツからついて女の人 先になつて 帰る と
 夕方になったから家に帰るぞとおじさんが言つて、私は荷物を背負つて、そのおじさん

が一番後ろについて、女の人が先になって帰ると

- (47) ekuskonna doko kara ka hemanta sisam ek wa
 突然 どこからか 憎らしい 和人 来る て
 突然、どこからか憎らしい和人が来て

- (48) “omae tati dare ni kotowatte yama sa haitta, hito no yama sa damatte doroboo ni hairu no ka,
 お前たち誰に断って山さ入った 人の山さ黙って泥棒に入るのか
syotta mono oke” tte
 背負ったもの置けて

- (49) ku=cis noyne ku=yaynu korka unarpe ka acapo ka minna
 1SG.S=泣く ように 1SG.S=思う けれど おばさん も おじさん も みんな
ayamatte mo kikanai
 謝ってもきかない
 私は泣きそうに思ったけど、おばさんもおじさんもみんな謝ったが（山主は）きかない

- (50) nipes yara nata yara opitta ko-uk-sarete ku=cis kor cise or un
 シナ皮 やら鉦やら すべて APPL-奪う-されて 1SG.S=泣くて 家 ところ へ
 hosipi akusu
 帰る と
 シナ皮やら鉦やらをすべて山主に奪われて、私は泣きながら家に帰ると

- (51) ta.. tane ukuran anakne nea tanto anakne koo koode nanno tame ni yama sa
 # 今 昨晚 TOP その 今日 TOP こうこうで何のために山さ
itta ka wakannai
 行ったかわかんない
 昨晚は、今日はこうでこうで何のために山へ行ったかわかんない

- (52) “hapo matte itabe? gomen ne” sekori ku=hawean kor
 母 待っていたべ ごめんね QUOT 1SG.S=言う と
 「お母さん、待ってたべ？ごめんね」と私が言う

- (53) sitakke hapo ku=tek-e ku=kisma²⁰ kata osaete naite
 したっけ 母 1.(A)=手-POSS 1SG.A=握る 肩おさえて泣いて
 そしたら、母が私の手を握って、肩をおさえて泣いて

- (54) “omae ni sonna koto sasete inunukaski korka makanak kar yakka
 お前にそんなことさせて 気の毒だ けれど どう やる ても
 k=erampewtek yurusite kure yo, yurusite kure yo”
 1SG.A=わからない 許してくれよ 許してくれよ
 「お前にそんなことさせて、気の毒だけれどどうすればいいかわからない、許してくれよ、許してくれよ」

²⁰ 文脈上、「私の手を私が握る」ではなく「母が私の手を握る」であることから、おそらく「 $\emptyset$ =kisma (3SG.A=握る)」の言い誤りと考えられる（「 $\emptyset$ 」は3人称のゼロ形式の人称接辞を表す）。

- (55) kani akkari hapo no hoo ga cis kor wasi ba kisma wa
 1SG.PRON より 母 のほうが 泣く て わしば 抱く て
 私より母のほうが泣きながら、私を抱いて
- (56) kondo, yama sa nanka mo iku koto nanka nai wa to omotte ita, hapo mo sikatanai,
 こんど 山さなんかも行くことなんかないわと思っていた 母 も仕方ない
dakedo watasi ga sore sinakattara hapo no sigoto ga nai hapo no sigoto o
 だけど私がそれしなかったら 母 の仕事がない 母 の仕事を
tukutte yaranai ba, seekatu dekinai, soo omotte ku=cis kor k=an akusu
 作ってやらないば 生活できない そう思って 1SG.S=泣くて 1SG.S=いる/ある と
 山になんかもう行くことなんかないと思って、母も仕方がないといっている、だけど、
 私がそれをしなかったら、母の仕事がない、母の仕事を作ってやらなければ生活できな
 い、そう思って私は泣いていると
- (57) sibaraku site kara na kim ta arpa wa nipes kep kar.. ya..
 しばらくしてから まだ 山 に 行く て シナ皮 剥ぐ # #
 kar=an ro sekor tonari no acapo ato.. acapo hawean
 採る=1PL.S.INCL(?) FP QUOT 隣の おじさん # おじさん 言う
 kor ek wa
 て 来る て
 しばらくしてから、また山に行ってシナ皮を剥ぎに、採りにいこうと、隣のおじさんが
 言いながら来たので
- (58) hapo ka suy a=ko-iruska-sareru, iyohay, iiya, nankai mo nankai mo
 母 も また 4.A=APPL-憎む-される おやまあ いいや 何回も何回も
sonna koto nai to omou kara, iku be, ii kara sekor yuwarete
 そんなことないと思うから 行くべ いいから QUOT ゆわれて
 母もまた憎まれる、おやまあ、いいや、何回も何回もそんなことないと思うから、いい
 から行こうと言われて
- (59) yada na to omotta kedo mo seekatu no tame dara sikatanai na
 やだなと思ったけども生活のためなら仕方ないな
 いやだなと思ったけども、生活のためなら仕方がない
- (60) sore nakereba mesi kuenain da mono to omotte, honto ni kokoro no naka de
 それなければ飯食えないんだものと思って ほんとに心の中で
hanbun naku yoo na omoi dake do mo, hahaoya mo kawai soo de
 半分泣くような思いだけども、母親もかわいそうで
 それがなければ、飯を食えないんだものと思って、本当に心の中では半分泣くような思
 いだったけども、母もかわいそうで
- (61) de ano.. tonari no acapo ato acapo yara unarpe utar
 で# 隣の おじさん あと おじさん やら おばさん たち
 turano ku=kar, nipes kep kusu arpa
 一緒に 1SG.A=採る シナ皮 剥ぐ ため 行く

それで、隣のおじさんやおばさんたちと一緒にシナ皮を剥ぎに行った

- (62) sono hi wa rewsi somo ki no iti niti kuneywa arpa wa
 その日は 泊まる NEG する て 一日 朝 行く て
 onuman hosipi korka pirka nipes ku=nukar wa poronno
 夕方 帰る けれど 良い シナ皮 1SG.A=見る て たくさん
 ku=se wa k=arpa akusu
 1SG.A=背負う て 1SG.S=行く と
 その日は泊まらないで朝行って夕方帰ったけれど、良いシナ皮をみつけてたくさん背負って帰ると

- (63) suy hapo “pirkano, eyamno e=ek iyayiraykere” sekor hawean kor
 また 母 きちんと 気をつけて 2SG.S=来る ありがとう QUOT 言う て
 また母は「ちゃんと、気をつけてお前が帰ってきてくれてありがたい」と言って

- (64) kokoro no naka de wa osoraku nakinagara wasi no te tottana to omotte
 心の中ではおそらく泣きながらわしの手取ったなと思って
demo konkai no sigoto wa mi ni natte yokatta to omotte
 でも今回の仕事は身になって良かったと思って
 心の中ではおそらく泣きながら私の手をとったと思って、でも今回の仕事は身になって良かったと思って

- (65) sono nata mo, sore kara sibaraku site kara yakuba kara nanika tegami kiteru kara
 その鉋も それからしばらくしてから役場から何か手紙きてるから
ano.. iyapo ikenai, ora ikenai kara omae tyotto itte koitte iyapo ni
 # 父 行けない おら行けないからお前ちょっと行ってこいって 父 に
iwarete yakuba itte mitara, iriguti ni yon tyoo ka go tyoo no nata, naraberarete atte
 言われて役場行ってみたら 入口に四丁か五丁の鉋 並べられてあって
 その鉋もしばらくして役場から手紙が来て、おらは行けないから、お前ちょっと行って見てこいって父に言われて役場に行ってみたら、入口に四丁か五丁の鉋が並べてあって

- (66) “omae arai.. araida ka?” tte
 お前 # 新井田かって
 「お前、新井田か？」と²¹

- (67) “hai, soo desu”
 はい そうです
 「はい、そうです」

- (68) “kore mire, kono naka ni mioboe aru mono aru ka?”
 これ見れ この中に見覚えあるものあるか
 「これを見なさい、この中に見覚えあるものあるか？」

- (69) mitara watasi no nata ga aru no sa, torareta nata ga aru no sa,
 見たら私の鉋があるのさ 取られた鉋があるのさ

²¹ 新井田は吉村氏の旧姓である。

見ると山主に取られた私の鉈がある

(70) nankagetu mo ato ni natte kara no koto danoni ne, mitara yappari wasi no nata atte

何か月も後になってからのことだのにね 見たらやっぱりわしの鉈あって

ato.. hoka no hito gata ni wa moo oyoso no kentoo tuiteru no ka dare mo ikanain da

他の人がたにはもうおよその見当ついてるのか誰も行かないんだ

watasi dake ga itte sa

私だけが行ってさ

何か月も後になってからのことだけど、見たらやっぱり私の鉈があって、他の人たちは
およその見当がついているのか誰も役場に行かないで、私だけが行って

(71) sosite “omae hito no yama sa damatte haitte, hito no yama kizutukerun da kara

そして お前人の山さ黙って入って 人の山傷つけるんだから

nata toraretan da be, omae, kore kara mo sonna koto sitara dame da yo,

鉈取られたんだべ お前 これからもそんなことしたらだめだよ

kono nata yaru kara, kaesu kara motte kaerinasai” tte yuware.. yuwarete

この鉈やるから 返すから持って帰りなさいって # ゆわれて

そして「お前は人の山に黙って入って山を傷つけたから鉈を取られたんだろ、お前はこ
れからもそんなことしたらだめだよ、この鉈を返すから持って帰りなさい」と言われて

(72) sono nata motte kaette kite iyapo ni kookoo da yotte ittakke “huun, sonno ne”

その鉈もって帰ってきて父 にこうこうだよって言ったっけ INTJ 本当 COP

soo ii nagara hapo mo “sikatanai na, demo nata moratte yokatta na,

そう言いながら 母 も 仕方ないな でも鉈もらってよかったな

ie no zaisan da mono na, sore nai ba, nani ano.. senaka de syotte aruku

家の財産だものな それないば なにあの 背中で背負って歩く

siba tori ni aruku ni mo, nai ba komaru nata da no ni, yokatta”

柴採りにあるくにも ないば困る鉈だのに 良かった

その鉈をもって帰ってきて父にこうだったよと言うと「ふーん、そのとおりだ」と言い
ながら、母も「仕方ないな、でも鉈を返してもらってよかったな、家の財産だもの、柴
を採りに歩くにもなければ困る鉈だから、良かった」

(73) sono toki dake wa yorokonde kuremasita, sore dake

そのときだけは喜んでくれました それだけ

そのときだけは喜んでくれた、それだけだ

略号一覧

: 言い誤り、言い淀み、フィラー / - : 形態素境界 / = : 人称接辞境界 / 1 : 一人称 / 2 : 二人称 / 4 : 四人称 / A : 他動詞主格 / (A) : 所有者属格 / APPL : 充当接頭辞 / CAUS : 使役 / COP : コピュラ動詞 / DESID : 希求 / FP : 終助詞 / IMP : 命令 / INCL : 包括 / INFR.EV : 推測証拠性 / INTJ : 間投詞 / NEG : 否定 / NMLZ : 名詞化辞 / O : 目的格 / PERF : 完了 / PL : 複数 / POSS : 所属形 / PRON : 代名詞 / Q : 疑問 / QUOT : 引用 / S : 自動詞主格 / SG : 単数 / TOP : 主題化 / VIS.EV : 視覚証拠性

付録

本稿で示した「シナ皮剥ぎの思い出」のテキストの音声資料を以下のサイトで公開する²²。

資 料	アイヌ語鵲川方言テキスト (3)
内 容	シナ皮剥ぎの思い出
アクセス	https://doi.org/10.5281/zenodo.18463620

謝辞

長年にわたり調査にご協力いただいた吉村冬子氏ならびにご家族の皆様に心から感謝申し上げます。また、本稿のテキスト 1 は、千葉大学大学院（当時）の遠藤志保氏にご同行いただき、調査に際して多くのご教示、ご協力を賜りました。ここにお名前を記し、感謝申し上げます。また、2 名の匿名査読者による的確なご助言にも感謝申し上げます。

参考文献

- アイヌ文化振興・研究推進機構（編）（1998）『アイヌ語弁論大会報告書』札幌：アイヌ文化振興・研究推進機構。
- 石垣福雄（1983）『北海道方言辞典』札幌：北海道新聞社。
- 小野米一・奥田統己（1999）『北海道のことば』札幌：北海道新聞社。
- 萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』東京：三省堂。
- 岸本宜久（2024）「アイヌ語鵲川方言テキスト（1）：火の玉を見て気を失った話」『北方言語研究』（14）251-270。
- 岸本宜久（2025）「アイヌ語鵲川方言テキスト（2）：犬の思い出」『北方言語研究』（15）301-321。
- 田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』東京：草風館。
- 中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館。
- 中川裕（2024）『アイヌ語広文典』東京：白水社。
- 服部四郎（編）（1964）『アイヌ語方言辞典』東京：岩波書店。

²² オープンアクセスの研究データリポジトリである Zenodo (<https://zenodo.org/>) を利用する。

Ainu Texts in Mukawa Dialect (3): Memories of Stripping Linden Bark

Yoshihisa KISHIMOTO
(Sapporo Gakuin University)

This article presents two texts, narrated by Ms. Fuyuko Yoshimura, a speaker of the Mukawa dialect of Ainu, featuring childhood memories of going to the mountains with neighbors to collect linden bark. Text 1 was collected on September 20, 2014, and Text 2 on October 4, 2014. Although both texts recount the same memories, there are interesting differences between them in terms of scene description and expression in Ainu. Both texts are valuable resources for studying Ainu as a heritage language among generations of speakers whose first language is Japanese.

Synopsis

One day, I went to the mountains on an overnight trip with some neighboring grown-ups to strip linden bark, a material necessary for weaving traditional mats. We collected a large amount of bark, and when we were about to have supper in the mountains, a bird circled over the campfire before flying off somewhere. No sooner had I wondered at this strange sight than a downpour of insects came raining down from the sky, ruining all the supper we had prepared. The next day, as we were about to head down the mountain with the stripped bark on our backs, we were spotted by the landowner, who confiscated all the bark and our hatchets. After returning home having gone through such a miserable experience, I told my mother what had happened in the mountains. She held me in her arms and cried. Later, I was relieved that the hatchets were returned to us, at least, but when I was a child, I went through many hardships just to make a living.

(きしもと・よしひさ kishi@sgu.ac.jp)